

A 重油を燃料とする温水ボイラの特性とご留意いただきたい点に関するご案内

A 重油はその成分特性により、燃料としてご利用いただく温水ボイラの日常のご使用に関して、ご留意いただきたい点を下記の通りご案内いたします。

1. 燃料油の種類と成分、特性について

液体燃料油は、原油を起点として精製の最初の蒸留工程における沸点の差により LPG、ガソリン、灯油、軽油、重油などの製品に別れその後、燃料油毎の目標品質を得るために更に精製工程を経て販売されております。

原油は炭素と水素を主成分としています。原油から精製されたそれぞれの燃料油も蒸留工程における沸点の差により炭素数に違いがあるものの炭素を成分としています。

炭素数：LPG（プロパン）＝3、ガソリン＝4～12、灯油＝8～16、
軽油＝10～26、**重油＝10～26**

* 出典「石油連盟 もっと知りたい石油の Q&A、エルピーガス振興センター LP ガス解説」

A 重油は、灯油や軽油より廉価なコストメリットを有しておりますが、留意点は炭素の分量です。炭素分は煤の主成分となり、バーナ火口などに煤として付着します。

煤の付着は他の燃料油である灯油、軽油などでも見受けられますが、これらと比較して炭素分を多く含む A 重油に於いては顕著であると言えます。

2. 保守点検について

A 重油を燃料とする温水ボイラに備わるガンタイプ油バーナは、ノズルチップが燃料油を圧力噴霧して霧化（微粒化）し燃焼させ、自己火炎により更に蒸発、燃焼を持続させています。

一般的に液体燃料油の火炎伝播速度はガス燃料と比較して小さいため、燃料噴霧部の周囲において着火炎を保持できる低速空気領域を形成しなければなりません。

この部分が煤つきを起こすと保炎機能が低下し、煤つきが更に加速され燃焼不良を引き起こします。

また A 重油は灯油に比較し粘度も高い性状であり、バーナへの煤付きにより燃焼に必要な空気との混合が阻害されやすくそのままご使用されると、温水ボイラ本体の煤詰まりが発生する事につながります。

従って特に A 重油をご利用いただく場合は、一定の燃焼時間を目安に定期的な点検清掃が必要となります。

但し点検が必要となる周期につきましては、ご使用となる燃料油や機器のご使用状況に伴う燃焼負荷によって異なります。

弊社の A 重油機器向け定期メンテナンスは、お客様の機器ご利用状況に応じた最適なプログラムをご提案いたします。

点検内容は 1 回につきまして以下の通りです。

- ① バーナ点検整備
- ② 炉内点検清掃
- ③ 水位計・給水電磁弁清掃
- ④ 防錆剤投入

長期に亘りご安心いただき、安全にご利用いただくために適切な保守管理に関しては、弊社にお問い合わせ、ご用命をお願い申し上げます。

以上